

第12回 縄文楽検定 初級 解答集

令和2年3月作成

テキストから90%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）
 火焰土器の国：新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』（新潟日報事業社、平成21年4月刊行）。
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 ガイドブック』（信濃川火焰街道連携協議会、平成30年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）
 聖火台アピール宣言：「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」アピール宣言について
 ※テキストⅠの（）内は、『火焰土器の国新潟』内のページ番号です。

No.	解	問題の出典と解説
1	d	テキストⅠ p5(136) aは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器(A式2号)、bは十日町市幅上遺跡出土の深鉢形土器、cは長岡市馬高遺跡出土の王冠型土器です。aとdの一番の違いは鶏冠状突起で、aは尾部が左上り、dは右上がりです。
2	b	テキストⅠ p25～26(156～157) 津南町道尻手遺跡例は高さ60.7cmで国内最大の火焰型土器です。最大の火焰型土器は高さ61.0cmのアメリカ・クリーブランド美術館所蔵資料とされますが、新潟県立歴史博物館の宮尾亨専門研究員の調査によれば、底部を別個体で補っており、本来の個体より5～7cmほど大きく復元されている可能性があります。(参考：新潟県立歴史博物館研究紀要第20号、2019)
3	d	テキストⅠ p10(141) カエル状突起が付く火焰型土器は発見されていません。神奈川県横浜市・大高見遺跡出土の勝坂式土器の突起にカエル状のものがありません(参考：横浜市立歴史博物館HP)。
4	a	火焰土器の国p88 分析の結果、煮炊きした食材のおこげと考えられています。
5	c	テキストⅠ p19(150)、火焰土器の国p32・88
6	d	テキストⅠ p15(146)
7	c	テキストⅠ p16(147) 火焰型土器の色調には赤色系と白色系があります。土器の胎土に鉄分が多く含まれるものは赤く、少ないものは白く焼き上がります。
8	b	テキストⅠ p11(142) aは十日町市幅上遺跡の深鉢形土器、cは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器、dは長岡市山下遺跡の深鉢形土器、です。
9	b	テキストⅡ p2 この土器は、胴部が縄文で施文されている点の特徴です。一般的な火焰型土器・王冠型土器は縄文で施文されません。
10	c	火焰土器の国p71～76 これまでの研究で、火焰型土器は粘土紐で作られたことがわかっています。文様やパーツの基本となるのはC字状の粘土紐で、鶏冠状突起やトンゴ眼鏡状突起などもC字状の粘土紐を組み合わせて作られています。
11	d	テキストⅠ p17 今のところ縄文土器には回転ロクロが使用されていないと考えられています。トチノミ殻の痕跡をもつ縄文土器も発見されていません。縄文土器の底には、木の葉や笹の葉、編み物の痕跡が残されていることがあり、これらを敷いて、手で回しながら土器を作っていたと考えられています。
12	d	テキストⅡ p12,14 日本遺産ガイドブックp14 藤橋遺跡は縄文時代晩期の大集落跡です。火焰型土器は出土していません。
13	a	テキストⅡ p19・21・22・23 a沖ノ原遺跡以外は、全て十日町市に所在する遺跡です。

14	a	テキスト I p10(141)、火焰土器の国新潟-p28など 鶏のトサカに似ていることから鶏冠状突起あるいは鶏頭冠と呼んでいます。
15	d	テキスト II p12,17,18、日本遺産ガイドブック構成文化財一覧
16	d	日本遺産ストーリー、日本遺産ガイドブックp2 暖流の対馬海流の流入によって日本海の海水面が上昇し、ここに大陸からの季節風が吹きこむことによって、この地域が豪雪地帯でになったと考えられています。
17	d	火焰土器の国p116～118 水田をつくり、稲作を行うのは、弥生時代のことです。
18	b	テキスト I p29、II p20 十日町市笹山遺跡出土品のうち928点が平成11年(1999)に国宝に指定されています。現在、新潟県内唯一の国宝です。a棚畑遺跡は長野県茅野市の遺跡で、ここから出土した土偶(縄文のビーナス)が国宝に指定されています。c長岡市馬高遺跡出土品は300点が重要文化財、d津南町堂平遺跡は火焰型土器と王冠型土器の2点が重要文化財に指定されています。
19	d	ガイドブックp20 典型的な火焰型土器の分布は、ほぼ新潟県内に限られます(テキスト p12・13参照)。新潟県が「火焰土器のクニ」と呼ばれるゆえんです。
20	d	テキスト外 現在のところ、縄文時代の遺跡から骨が出土しているのは、このうちイヌだけです。古くは縄文時代早期のまでさかのぼります。aネコとbニワトリは弥生時代の遺跡から、cウマは古墳時代の遺跡から出土しています。
21	c	テキスト II p5・6 五泉市大蔵遺跡から出土した台付浅鉢は、優勝カップに似たその形から「栄光杯」と呼ばれています。阿賀野川にかかる馬下橋の欄干を飾るなど、多くの市民に親しまれています。
22	b	テキスト II p27 魚野川流域では土偶の出土が少なく、地域の特徴となっています。
23	a	テキスト I p1
24	b	火焰土器の国p100 石皿と磨石はセットで使用されたと考えられ、石皿は中央部がくぼんでいます。 三脚石器の用途は不明です。石棒は信仰の道具、石槍は狩猟具、石錐は毛皮などに穴をあける道具、磨製石器は木の伐採や加工に、打製石斧は土を掘る道具と考えられています。
25	a	テキスト外 まが玉は、適当な大きさに割った石を磨いて作ります。
26	d	テキスト I p22～24(153～155) aは三角形土製品、bは三角壻(とう)土製品、cは石錘です。
27	a	テキスト I p22～24(153～155) bは三角壻(とう)土製品、cは石錘、dは三脚石器です。正解のaと紛らわしくするため、dは写真の上下を逆さまにしてみました。気付いたでしょうか？
28	c	火焰土器の国p112、116～124 三角形土製品は縄文時代中期中ごろに作られた道具で、土偶の省略形とする考えが主流です。新潟県の縄文中期を代表する遺物で、これ以降の時代では作られていません。他の3つは弥生時代になっても作られています。
29	c	日本遺産ガイドブックp1 信濃川火焰街道連携協議会に加盟している市町は現在、新潟市・三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町の5市1町です。残念ながら小千谷市は加盟していません。なお、俣沢遺跡は縄文時代中～後期の遺跡で、王冠型土器の復元品が有名です(テキスト II p17)。

30	d	<p>テキスト I p4(135) 住居が広場を取り囲むように配置されることから、環状集落と呼ばれます。集落の一方が途切れるものがありますが、これはC字状でなく、馬蹄形集落と呼ばれます。b環濠集落・c高地性集落はともに弥生時代の集落形態で、bは集落のまわりに濠をめぐらせたもの、cは丘陵や山頂に作られた集落です。新潟市の国史跡・古津八幡山遺跡は、弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落です(日本遺産ガイドブックp8)</p>
31	b	<p>テキスト I p4(135) 火焰土器が作られた時代の集落は、見晴らしの良い高台(台地)に作られます。今のところ、a低地、c山頂、d海辺では発見例がありません。縄文時代後期になると、低地にも集落が作られるようになります。</p>
32	c	<p>テキスト II p25、火焰土器の国p48・105・106 cは中国・良渚遺跡群の囲壁(いへき)跡です。囲壁は集落を取り囲む壁のことで、火焰土器と同じ時代の中国では囲壁集落が各地に現れました。aは津南町堂平遺跡、bは津南町道尻手遺跡、dは南魚沼市原遺跡で発見された堅穴住居跡です。</p>
33	d	<p>火焰土器の国p104～105 火焰土器が作られた時代の堅穴住居は、平面形が円形あるいは卵形のもの、そして長方形のもの、があります。正方形やそれに近い形をしたものは、縄文時代前期に見られます(十日町市干溝遺跡など)。一方、三角形やひょうたん形の堅穴住居は見つかっていません。</p>
34	c	<p>テキスト II p8 フラスコ状土坑は入口が狭く底が広がる堅穴状の遺構で、断面が実験道具のフラスコに似ていることから、その名が付いています。袋状土坑とも呼ばれます。その特殊な形状から、木の実などを貯蔵したと考えられています。</p>
35	d	<p>テキスト外 「おこげ」の分析から、シカやイノシシ、クリ・トチなどの堅果類、サケ・マスを土器で調理していたと考えられるデータが得られています(参考:火焰土器の国p89～98)。一方、日本列島では、ナウマンゾウは約2万年前(旧石器時代)に絶滅したと考えられています。</p>
36	c	<p>テキスト II p3、日本遺産ガイドブックp6</p>
37	c	<p>テキスト I p5・7(136・138) a吉田東伍(よしだ・とうご)は現在の阿賀野市出身の歴史学者・地理学者で、『大日本地名辞典』の編纂者として有名です。阿賀野市に吉田東伍記念博物館があります。b近藤篤三郎は長岡市関原町の考古学研究者で、「火焰土器」の発見者です。d江坂輝弥は慶應義塾大学で教鞭をとった考古学者です。津南町沖ノ原遺跡などで調査団長を務めています。</p>
38	c	<p>テキスト II p11、日本遺産ガイドブックp8 a的場遺跡は奈良・平安時代の遺跡で、特に漁具が大量に出土していることが特徴です。b古津八幡山遺跡は弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落です(問30参照)。dは旧石器時代末(細石刃文化)の遺跡で、荒屋型彫器(彫刻刀形石器)と呼ばれる石器の標式遺跡として世界的に有名です。</p>
39	c	<p>日本遺産ガイドブックp6 条約名には締結(調印)された場所(都市)の名前が多く、ラムサールはイランの都市です。aワシントン条約は絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約、bヴェルサイユ条約は第一次世界大戦における連合国とドイツ国の間で締結された講和条約の通称です。dパリ条約は50以上あり、国際政治においてパリが重要な都市であることを示しています。</p>
40	a	<p>日本遺産ガイドブックp5 福島潟は日本一のオオヒシクイの越冬地です。オオヒシクイは、ロシアのカムチャツカから飛来し、その数は5,000羽以上にもなります。</p>
41	c	<p>ストーリー、日本遺産ガイドブックp4・9・26・30 秋山郷のいくつかの集落では縄文時代の遺跡が見つかっています。b田代の七ツ釜も、秋山郷と同様、鈴木牧之の著書『秋山記行』に登場しますが、縄文時代の遺跡は発見されていません。</p>
42	d	<p>テキスト II p5・8・11・15 八十里越は、三条市から魚沼市を經由して会津(只見町)に至る道です。aは長岡市、bは見附市、cは加茂市の遺跡です。</p>

43	c	<p>ストーリー、ガイドブックp2</p> <p>突起、特に口縁部に突起が付くのは縄文土器の大きな特徴で、他の焼き物とは区別されます。</p>
44	c	<p>ガイドブックp32</p>
45	b	<p>ガイドブックp28</p>
46	a	<p>テキスト外</p> <p>大英博物館では、平成24年(2012)から堂平遺跡出土の火焰型土器1点(構成文化財18)、平成28年(2016)からは長岡市岩野原遺跡出土火焰型土器と王冠型土器(構成文化財14)・栃倉遺跡出土深鉢形土器(構成文化財15)・中道遺跡出土深鉢形土器の計4点、合計5点が常設展示されています。 ※第11回初級解答集で問42の解説に「道尻手遺跡」とあるのは、堂平遺跡の誤りです。</p>
47	b	<p>ストーリー、ガイドブックp5</p> <p>昭和26年(1951)、東京国立博物館を訪れた岡本太郎は縄文土器に衝撃を受け、「なんだ、コレは！」と叫んだとも言われています。信濃川火焰街道連携協議会の日本遺産認定ストーリー『「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』のタイトルは、このエピソードにちなんでいます。 北大路魯山人は明治から昭和にかけて活躍した芸術家・料理家です。若いころ岡本太郎の祖父・作次郎(可亭)の内弟子でした。パブロ・ピカソは「20世紀最大の芸術家」とも呼ばれます。岡本太郎は、パリ留学時代、ピカソの「水差しと果物鉢」を見て衝撃を受けたと、著書『青春ピカソ』に綴っています。森本六爾は考古学者。弥生時代研究の先駆者の一人で、弥生時代における稲作農耕の存在をいち早く提唱した人物です。</p>
48	b	<p>日本遺産ガイドブックp24・巻末「構成文化財一覧」</p> <p>魚沼市の赤城山西福寺は曹洞宗の寺院で、開山堂を彩る石川雲蝶の作品が有名です。</p>
49	c	<p>テキスト外</p> <p>十日町博物館は令和2年(2020)6月1日に新館オープンの予定です。お楽しみに。</p>
50	c	<p>ガイドブックp35,36</p> <p>aは長岡市馬高縄文館の入口にある、馬高遺跡出土の「火焰土器」のモニュメント。bは新潟市昭和大橋の欄干です。dは新潟県立歴史博物館の駐車場近くにある、馬高遺跡出土の王冠型土器のモニュメントです。 協議会では、令和元年度に引き続き、令和2年度も縄文土器モニュメントめぐりスタンプラリーを開催予定です。ぜひご参加ください(詳しくはHP「日本遺産 火焰型土器」をチェック！)。</p>